

[原著論文：査読付]

論理的な思考力を育成する説明的文章の指導  
～小学校中学年の教科書単元を中心に～

藏内 保明\*

Teaching expository sentences to foster logical thinking skills  
*Focusing on textbook units for 3<sup>rd</sup> and 4<sup>th</sup>-grade of elementary school*

Yasuaki KURAUCHI\*

Abstract

In units centered on expository sentences for 3<sup>rd</sup> and 4<sup>th</sup>-grade elementary students, the investigator examined which methods of instruction would be most effective to foster the students' logical thinking skills.

During the investigation, the investigator compared and contrasted two composite units from 3<sup>rd</sup> and 4<sup>th</sup>-grade textbooks.

The investigator paid particular attention to two points: the characteristics of each teaching material and the learning activities indicated in the textbook's accompanying study guide.

In the unit titled "*Soybeans and their many forms*", the investigator discovered that students could more easily grasp the textbook author's way of explaining by considering the order of each formal paragraph in the "middle" section of the three-part text.

In the unit titled "*Washi: Paper to be proud of*" in the 4<sup>th</sup>-grade textbook, the investigator found that students could more easily grasp the reasoning behind the textbook author's claims and explanations by understanding and summarizing logical paragraphs.

In both cases, the units were structured so that the students could make use of the textbook author's explanations in order to express themselves based on the content they had read.

Based on the characteristics of each teaching material and the intention of the learning activities outlined in the textbook's accompanying study guide, the investigator believes it is possible to foster students' logical thinking skills by prioritizing the teaching points in each learning unit, and through accumulative and systematic instruction.

**KEY WORDS** : Logical thinking skills, Expository sentences, Instruction(methods), 3<sup>rd</sup> and 4<sup>th</sup>-grade of elementary school

## 1 研究の目的

私の過去の指導主事や管理職としての指導経験に基づくと、国語科の「C読むこと」の指導において、授業者が単元の指導計画を構想する際に、その単元で取り上げられている教材の特徴等については十分な教材研究を行うものの、その単元のみで考えていることが多かった。そのため、一つの単元に指導する内容を詰め込み過ぎて、指導者である教師と学習者である児童がともに消化不良を起こして、目指すべき資質・能力が定着していかない状況があった。

そこで、学校や学年の実態に応じて重点的に指導ができるよう目標、内容及び言語活動例がそれぞれ2学年ずつにまとめて示されている<sup>1)</sup> 国語科の特徴を生かして、まず、それぞれの単元の重点をどのように考えるべきかを明らかにする必要があると考えた。

平成29年に告示された学習指導要領では、資質・能力の育成を目指し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進がうたわれている。このことを受けて、小学校国語科の目標において、育成を目指す資質・能力を「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」としている。さらに「思考力・判断力・表現力等」に関する目標としては、「日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。」としている。この「思考力や想像力を養う」とは、「言語を手掛かりとしながら論理的に思考する力や豊かに想像する力を養うことである。」<sup>2)</sup> と解説されている。

一方、長崎伸仁氏は、その著書『説明的文章の読みの系統—いつ・何を・どう指導すればいいのか—』<sup>3)</sup> の中で、「読みの目標からの系統化」を掲げ、「読みの目標」として、「情報を読む」「論理を読む」「筆者を読む」の3点を定義している。

さらに、続けて次のようにも述べている。<sup>4)</sup>

特に、中学年段階で主に行わなければならないとする論理を読むは、読み手の素直な読みからはなかなか生じてこないものだと考えられる。ゆえに、表現や論理構造の読みは、教師の指導のねらいがあってこそ実現の方向に向かうと考えざるを得ない。

このような、今回の学習指導要領の改訂で目指されているものと長崎氏の考え方に基づいて、令和2年4月から全面実施となった教育課程に準拠した教科書に掲載されている説明的文章教材における論理的に思考する力を育てる指導はどうあるべきか、それぞれの教材の特徴に即した単元としての指導の在り方について小学校中学年を中心に検討する。

## 2 研究の内容

この研究においては、北九州市で採用されている光村図書出版の小学校国語科用教科書「国語三下おおぞら」「国語四下はばたき」に掲載されている2つの説明的文章を中核とした複合単元を対象として、それぞれの教材文の特徴と「学習」(手引)を比較することにより、小学校中学年としてのそれぞれの単元における指導内容の重点をどのように考えるべきかについて考察することを目指す。

## 3 研究の実際

### (1) 学習指導要領における小学校中学年の国語科の目標及び内容

小学校国語科における第3学年及び第4学年の目標は、「思考力、判断力、表現力等」に関するものとして、「筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができるようにする。」ことが示されている。

また、「C読むこと」の説明的文章に関する内容としては、次のようになっている。

<表1> 学習指導要領における「C読むこと」の説明的文章に関する内容

構造と内容の把握	ア 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。
精査・解釈	ウ 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。
考えの形成	オ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。
共有	カ 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。
言語活動例	ア 記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりすること。 ウ 学校図書館などを利用し、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。

(2) 各教材文の特徴を分析する

各教材文の特徴を分析する観点はさまざまある。ここでは、前述した長崎氏が提唱している「読みの目標からの系統試案」に基づき、「表現の構造から分類した教科書教材の配列」について、私の考えを示すこととする。

① 長崎氏による「表現の構造から分類する観点」

長崎氏は、「読みの目標からの関わりを見るとき」と、観点は、教材内容は問題にならず、次に示すような教材の表現構造がクローズアップされる。」<sup>4)</sup>とし、以下のような5つに分類している。

<表2> 表現の構造から分類する観点

説明型	読み手にある事柄を説明することを目的とした教材。
紹介・観察型	読み手にある事柄を紹介することを目的としたり、あるいは、観察したことを知識・情報として知らせることを目的とした教材。
実証型	読み手に、ある事柄について実験、実証して、事の真実を伝えることを目的とした教材。
論証型	読み手に、ある事柄について論理的に証明して、事の真実を伝えることを目的とした教材。
論説型	読み手に、ある事柄について論理的に説明することを目的とした教材。

② 長崎氏の「表現の構造から分類する観点」に基づいた教科書教材の分類  
この「表現の構造から分類する観点」に即して、現

行の光村図書出版の教科書に掲載されている第3学年及び第4学年の教材を分類すると次のように考えることができる。

<表3> 表現の構造から分類した教科書教材（第3学年及び第4学年）

説明型	・ことばで遊ぼう(3年上) ・こまを楽しむ(3年上)
紹介・観察型	・すがたをかえる大豆(3年上)
実証型	・ありの行列(3年下)
論証型	・ウナギのなぞを追って(4年下)
論説型	・思いやりのデザイン(4年上) ・アップとルーズで伝える(4年上) ・世界にほこる和紙(4年下)

③ 教材文『すがたをかえる大豆』の特徴

光村図書「国語三下あおぞら」に掲載されている教材文『すがたをかえる大豆』国分牧衛著は、単元「れいの書かれ方に気をつけて読み、それを生かして書こう」の中の一教材として位置付けられている。この単元は、他の『科学読み物での調べ方』『食べ物のひみつを教えます』という教材と組み合わせられた「読むこと」と「書くこと」の複合単元となっている。扉のリード文には「大豆がすがたをかえるとは、どういうことでしょうか。筆者のせつめいのしかたのくふうを見つけてみましょう。そして、あなたも食べ物についてせつめいする文章を書きましょう。」と記されている。

つまり、教材文『すがたをかえる大豆』の学習を通して、筆者の説明の仕方について学び、その説明の仕

方を生かして、自分が調べた食べ物について説明する文章を書くという単元構成になっている。

この教材文『すがたをかえる大豆』は、全部で8つの段落によって構成されており、全部で38文（1段落平均4.8文）の文章である。

教材文の内容としては、大豆がさまざまな工夫によって違う食品に変身することが6つの事例として説明されている。そして、この変身のための工夫は、「昔の人々のちえ」とあるという筆者の考えでまとめられている。したがって、「表現の構造からの分類」としては、紹介・観察型と考えることができる。

④ 教材文『世界にほこる和紙』の特徴

光村図書「国語四下はばたき」に掲載されている教材文『世界にほこる和紙』増田勝彦著は、単元「中

心となる語や文を見つけて要約し、調べたことを書く」の中の一教材として位置付けられている。この単元は、他の『百科事典での調べ方』『伝統工芸のよさを伝えよう』という教材と組み合わせられた「読むこと」と「書くこと」の複合単元となっている。扉のリード文には「日本には、さまざまな伝統工芸があります。その一つである和紙について、筆者はどのように考えているでしょうか。また、みなさんの地域には、どんな伝統工芸がありますか。」と記されている。

つまり、教材文『世界にほこる和紙』の学習を通して筆者の考えを読み取り要約するとともに、「伝統工芸のよさ」をキーワードとして、自分が調べた身近な地域の伝統工芸について説明する文章(リーフレット)を書くという単元構成になっている。

この教材文『世界にほこる和紙』は、10段落によって構成されており、全部で40文(1段落平均4文)の文章である。「和紙のことをほこりに思い、より多くの人に和紙のよさを知ってもらい、使ってほしい」という筆者の思いや願いのもとに、和紙のよさや長い間使い続けられてきた理由が述べられている。

このように、この教材文は、筆者の考えが明確に表現され、段落のつながりをとらえやすいので、要約することの意味や要約の方法を学習するのに適した教材であると言える。「表現の構造からの分類」としては、論説型と考えることができる。

### (3) 教科書の「学習」(手引)に示されている学習活動を比較する

3年の教材文『すがたをかえる大豆』は、<表4>「学習」の欄「とらえよう」の項目で、文章全体の組み立てについて、「初め・中・終わり」の三部構成としてとらえることや「中」の具体的な例の内容をそれぞれ読み取することをねらいとしている。また、「ふかめよう」の項目では、「中」の部分で具体的な例を挙げている各段落の冒頭に中心文が書かれていることや、各事例の順序に筆者の意図があることを読み取らせようとしていることがわかる。そして、それらを児童が書く説明的文章に生かすことを目指している。

「中」の部分の具体的な例は、作り方が簡単なものから複雑なものへ、変化の小さなものから大きなものへと、説明の順序が工夫されている。また、工夫の内容がそれぞれ独立しており並列的に書かれている。そのため、この部分を意味段落としていくつかにまとめることはできない。

これらのことから、まず、各段落に書かれている内

容を確かに読み取らせるために、各段落の組み立て方をしっかりと把握させることが重要になる。児童に自分の説明的文章を書かせる際には、少なくとも3つの具体的な例を用意させたい。そうすることで、6通りのパターンからどの並び方にするか、説明する順序について必然性をもって考えることになる。

一方、4年の教材文『世界にほこる和紙』では、単元名が「中心となる語や文を見つけて要約し、調べたことを書く」である。そして、「文章の組み立てをとらえ、中心となる語や文をたしかめて要約しましょう」「調べたことをもとに、自分の考えとその理由や例が伝わる文章を書きましょう」と示されている。

また、<表4>「学習」の欄「とらえよう」の項目では、三部構成の「中」を二つのまとまりに分けることが示されている。また、「ふかめよう」の項目では、中心となる語や文を使って200字以内で要約することが示されている。

このように、『世界にほこる和紙』では「中」の部分を「和紙のよさ」と「和紙の使われ方」という2つの意味段落に大別することができるという教材文の特徴を生かして、「中」の部分の形式段落を意味段落のまとまりに分けて把握する力を身に付けることや、要約する力を身に付けることをねらいとしていることがわかる。

その上で、教科書編集としては、伝統工芸について自分が調べたことをもとにリーフレットをつくるという目的意識をもたせている。つまり、紹介したい内容を限られた文面の中でいくつかのまとまりを設けて端的に書き表していくというリーフレットの特性と、調べたことを要約するという力が、必然性をもって結びつくようになっている。

したがって、児童自身が選んで紹介する伝統工芸の「よさ」については、「素材」や「使われ方」など2つの観点からとらえるようにしていくことによって、教材文を通して学んだことを自分の表現に生かしやすくなると思われる。

<表4> 小学校教科書教材「説明的文章・学習の手引」中学年複合単元比較表<sup>5) 6)</sup>

	すがたをかえる大豆<3年下>	世界にほこる和紙<4年下>
見 通 し を も と う	れいの書かれ方に気をつけて読み、それをいかして書こう ・筆者が、どのようにれいをあげているかを考えて読みましょう。	中心となる語や文を見つけて要約し、調べたことを書こう ・文章の組み立てをとらえ、中心となる語や文をたしかめて要約しまし よう。
	・れいの書き方をくふうして、せつめいする文章を書きましょう。	・調べたことをもとに、自分の考えとその理由や例が伝わる文章を書きま しょう。
と ら え よ う	○文章全体の組み立てについて考えましょう。 ・全体を「初め」「中」「終わり」に分けましょう。 ・筆者が、「中」であげている具体的なれいを、ノートに整理しましょう。 ○「いる」「にる」のような、大豆に手をくわえるときの言葉の意味を、国 語辞典でたしかめましょう。	○文章全体の組み立てについて考えましょう。 ・筆者の考えが書かれている段落を見つけて、全体を「初め」「中」 「終わり」に分けましょう。 ・筆者は、考えの理由となることを二つ挙げています。それぞれの理由が説 明されている段落を考えて、「中」を二つのまとまりに分けましょう。
ふ か め よ う	○「すがたをかえる大豆」には、「はじめ」に「問い」がありません。「問 い」を入れるとしたら、どこに、どんな文を入れますか。	○筆者は、「中」でいくつかの例を挙げています。何を説明するために、ど のような例を挙げているでしょうか。ノートにまとめましょう。
	○「中」の書かれ方について考えましょう。 ・それぞれの段落の大事な文は、どこにあるか。 ・どんなじゅんじょで、れいをあげているか。	○文章全体を要約しましょう。 ・「初め」「中」「終わり」のまとまりごとに、中心となる語や文をたしか めましょう。 ・中心となる語や文を使って、「世界にほこる和紙」を二百字以内で要約し ましょう。
	○筆者のせつめいのしかたには、どのようなくふうがあるでしょうか。次のこ とから考えましょう。 ・文章全体の組み立てと、それぞれの段落の組み立て ・言葉の使い方 ・写真の使い方 など	
ま と め よ う	○「食べ物のひみつを教えます」(51ページ)では、食べ物について調べて、 せつめいする文章を書きます。学校図書館などで、食べ物についての本を読 んでみましょう。そして、感想をまとめましょう。	○和紙以外にも、日本にはさまざまな伝統工芸があります。図書館などで本 をさがして読み、伝統工芸のよさが書かれていると思う部分を中心に、内容 を要約しましょう。
ひ ろ げ よ う	○読んだ本の感想を、友だちにつたえましょう。 ・はじめて知ったこと、他の人に知らせたいこと。 ・せつめいのしかたで分かりやすいところ、くふうされていたところ、まね したいところ。	○要約した文章を友達と読み合い、次のことについて、感じたことを伝え合 いましょう。 ・要約の仕方について ・伝統工芸のよさについて
ふ り か え ろ う	○知る 何に気をつけて本を読みましたか。 ○読む れいのあげ方について、どんなくふうに気がきましたか。 ○書く 気がついたくふうを、自分の文章にどうかしましたか。 ○つなぐ せつめいする文章を読んだり書いたりするとき、どんなことに気 をつけたいですか。	○知る どんなことに気をつけて、資料を使ったり整理したりしましたか。 ○読む どの言葉や文に注意して、文章を短くまとめましたか。 ○書く 理由や例を挙げるとき、どんなことに気をつけましたか。 ○つなぐ 何かのよさを伝えるときには、どんなことに気をつけたい でき ますか。
た い せ つ	話題と、れいの書かれ方をとらえる ○題名や「はじめ」から、話題をたしかめる。	要約する ○まとまりごとに、中心となる語や文をたしかめる。
	○「中」のれいと話題とのつながりをとらえ、それぞれの段落の役わりを考 える。	○分量を考えて、元の文章の組み立てをいかしたり、自分の言葉を用いたり して、短くまとめる。
	○れいをあげるじゅんじょや写真の使い方など、筆者のれいの書き方に気 をつける。	

このように比較してみると、中学年の指導内容の「構造と内容の把握」において、「段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること」を目指す中で、3年生の『すがたをかえる大豆』では各形式段落の構造や事例の説明の順序に着目させようとしていること、4年生の『世界にほこる和紙』では意味段落を基に把握させようとしていることがわかる。さらに「精査・解釈」の「目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること」も目指している。そして、これらの指導内容が、それぞれの教材の特徴と深く結びついており、論理的に思考する力のベースとなる資質・能力を育成することに繋がっている。

#### 4 研究の成果と課題

今回、第3学年と第4学年の説明的文章を中核とした2つの単元について、教材文の特徴及び学習の手引に示された活動の比較を行うことにより、似たような単元構成のものであっても、それぞれ目指す資質・能力に即して、教材文の特徴を生かした学習活動が設定されていることが明らかになった。また、その学習活動は、3年の『食べ物のひみつ教えます』と4年の『伝統工芸のよさを伝えよう』の中で示されているように、通常の記事とリーフレットという表現形態の違いとも密接に結びつき、目指す資質・能力を育成するために考え抜いて設定されている。このように「読むこと」と「書くこと」の複合単元となっている場合、単元の導入時において、目指す表現形態（通常の記事やリーフレット等）の特徴について児童とともに十分検討することが重要である。児童自身が、どのようなものを作るのかという目的意識を明確にもって学習に臨むことによって、提示されている教材文を読むことに対してより主体的になり、論理的に思考する力が高まると考える。

学習者・指導者ともに、どのような資質・能力を身に付けるためにその教材でその学習活動を行うのかという理解が不十分な場合、どこで何を学ぶか・指導するかという重点があいまいになりがちである。特に指導者は、自分なりに学習活動を創意工夫することも大切ではあるが、まずは、教材の特徴と教科書に示された学習活動の意図を十分に検討した上で、学習者である児童の実態を踏まえて指導計画を立てることが重要である。

今回は、説明的文章を中核とする中学年の2学年2

単元の教材だけの比較であったが、今後は対象を説明的文章の全教材へと拡大して比較検討を行うことにより、小学校6年間を通じた系統的・計画的な指導がより確かなものとなるよう研究を継続していきたい。

#### 5 謝辞

本論文は、学校における授業研究会での私の指導経験に基づき、これからの学校教育・国語教育を支えていく若い先生方にいくらかでも参考になればという思いでまとめた。

令和3・4年度、ともに教材研究と実践に取り組んでいただいた遠賀町立島門小学校の奈木野剛校長先生をはじめ教職員の皆様方、また、このような論文発表の機会と場を与えていただいた九州共立大学学長奥田俊博様に心よりお礼申し上げます。

#### <引用文献>

- 1)文部省(1999)『小学校学習指導要領解説国語編』東洋館出版社pp.5-6
- 2)文部科学省(2017)「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説国語編」東洋館出版社p.12
- 3)長崎伸仁(1992)『説明的文章の読みの系統—いつ・何を・どう指導すればいいのか—』素人社pp.12-13
- 4)長崎伸仁(1992)『説明的文章の読みの系統—いつ・何を・どう指導すればいいのか—』素人社p.16
- 5)甲斐睦朗, 他(2020)『小学校国語科用教科書「国語 三下あおぞら」』光村図書出版pp.48-49
- 6)甲斐睦朗, 他(2020)『小学校国語科用教科書「国語 四下はばたき」』光村図書出版pp.50-51

#### <参考文献>

- 1)甲斐睦朗, 他(2020)『小学校国語科用教科書「国語 三下あおぞら」』光村図書出版
- 2)甲斐睦朗, 他(2020)『小学校国語科用教科書「国語 四下はばたき」』光村図書出版
- 3)白石範孝(2020)『白石範孝の「教材研究」—教材分析と単元構想—』東洋館出版社

Received date 2022年11月18日

Accepted date 2022年12月9日